

地区・地域の紹介 兜台 かぶとだい

我が街「兜台」

家康が伊賀越えの時に兜を脱いだことに由来するとも言われる我が街兜台は、昭和53年に日本住宅公団により開発が始まり、昭和61年に相楽ニュータウンとして街びらきしました。

UR都市機構の記録によれば、街びらきの時には、記念マラソンやパレードなどが盛大に開催されたようですが、残念ながら地域には当時の様子を伝える資料は残っておりません。

同年4月には、木津町立高の原小学校、木津第二中学校、そして京都府立南陽高等学校が開校して、その後の人口流入により、現在は約3,000世帯、6,700人が暮らす街となっています。

自治会連合会結成

平成6年7月には、各丁内ごとに作られた自治会が集まって、兜台区自治会連合会が結成されました。結成の趣旨は「各自治会の親睦ならびに情報交換を図る」と会則に記されました。

街全体は新しくできたニュータウンですから、ハード面の整備や修繕より、むしろ交流や生活の利便性向上を目的として理事会で議論が進みました。その交流を図る行事として、平成8年には第1回ボウリング大会が開催されました。ボウリングは子供から高齢者まで



25年間開催されたボウリング大会

が楽しめるスポーツとして人気を集め、参加者も年々増え、最初の頃は定員の150名を超え、出場者は抽選となるほどの盛況ぶりでした。

さくらまつり開催

平成11年には、自治会連合会の最大行事である「さくらまつり」が兜谷公園で初めて開催されました。桜を楽しむながらの餅つき、炊き出し訓練を兼ねた鍋料理などの屋台も人気で、防災啓発のために行う防災クイズも楽しくなるよう工夫が施されて兜台に住んで良

かったと実感できる行事となっています。参加者500名を超えるこの行事は、8名の連合会理事だけでの実施は到底不可能で、連合会内に設置されたスポーツ委員会（現：健康福祉委員会（現：健康福祉委員会）の皆さんが運営に活躍されています。



自主防災会による防災クイズ

木津町民運動会での活躍

自治会連合会内に設置されたスポーツ委員会は、合併前の木津町民運動会で輝かしい成績を残しました。

平成11年9月には区対抗リレー女子の部で初めアベック優勝の賞状で優勝を果たし、計3回の優勝という成績を残しています。このように輝かしい結果を出した女子リレーにより「兜台は女性が強いぞ」とまで言われていました。この力学が、家庭にも及ぶことに危機感を抱いた男子の部も、負けてはならないと発奮して平成17年には念願の男子リレー初優勝を果たしました。その年は女子リレーも優勝して、悲願の男女リレーアベック優勝を達成したのです。

この頃の兜台選手団は総勢300名超え、テントも6張、木津町内でも最大の選手団を形成していました。リレー選手の選抜、お弁当や飲み物の手配、応援を盛り上げるなど、スポーツ委員会が果たした役割は大きかったと思うと同時に、兜台が一番元気があった頃かもしれないと少し懐かしく思い出されます。

街びらき20周年

平成18年には街びらき20周年を迎えました。盛大に祝った昭和61年の街びらきには程遠く、周りの関心も薄れ20周年という言葉さえ聞かなくてこない状況でした。自治会連合会では、これでは余りにも寂しいの



アベック優勝の賞状



KCN京都の取材の中で開催

で、それなら自分たちの手で祝おうと毎年4月に開催している「さくらまつり」を街びらき20周年記念事業として開催しました。

当日は雨となり兜谷集会所での開催となりましたが、各自治会が一文字ずつ手書きで書いた文字をつなぎ合わせた横断幕が掲げられ、街の移り変わりが映像で紹介されました。華を添える琴が演奏される中、参加者全員で20周年を祝いました。

この行事の様子はKCN京都の特別番組として放映され、地元新聞でも紹介されました。さらに、街の変化の様子をA4二つ折の簡易版にまとめた20周年記念誌が発刊されました。また、今後の街の課題として、横の世代のつながりだけでなく、縦の世代のつながりを深めることが必要だと、次の10年の活動に期待が込められました。



開発前の街の様子から開発途中、開発後の写真を掲載

20周年から30周年にかけて

この間の大きな出来事は、何と言っても平成19年3月の3町合併により木津川市が誕生したことでした。

同年5月には高の原駅前大型商業施設イオンショッピングセンターが開業したことも街にとっては大きな変化でした。いずれも不安はありましたが、合併は生活圏を広げただけではなく、交流や情報を豊かにしてくれ、商業施設は賑わいと利便性をもたらしてくれました。平成23年に発生した東北大地震は、自治会の取り組む方向を大きく変えました。同年10月に自治会連合会が設置した自主防災会掲示板は、防災活動強化を表したものでありました。一方、街の人口は平成19年から20年頃の約7,700人をピークに減少傾向をたどり、

現在の人口は約6,700人とピーク時から比べると1,000人の減少となっています。この原因は、兜台で育った子供たちの転出が原因です。

社会福祉協議会兜台区支部

社会福祉協議会兜台区支部は、2025年の10年前となる、平成27年に、世代間交流を中心とした中期5か年計画と10年ビジョンを策定しました。これらは、高齢化



平成28年とんど焼き

を地域で支えていくことを目的に策定されました。街びらき20周年の課題であった縦の世代のつながりを深めるための世代間交流事業などが具体策として盛り込まれ、街びらき30周年となった平成28年に第1回兜台とんど焼きが開催されました。

30周年から平相50、そして未来へ

30周年となった平成28年には自治会連合会から各自治会の報告などが掲載された記念誌が発刊されました。平城・相楽ニュータウン街びらき50周年の年となった令和4年11月には記念事業に参加し、新たに奈良市の方や事業者の方と交流が広がりました。

チャレンジ兜台

兜台のスポーツを振興させたスポーツ委員会は、時代の変化に柔軟に対応することを目的として令和2年に「健康福祉委員会」へ改称しました。

そして、参加者が減少したボウリング大会を25回で終了として、令和5年に新たに「ポッチャ大会」を開催しました。課題のない時代はありません。どんな時であっても課題は現実として受け止め今後も協力して解決に取り組んでまいります。

『流れも清き木津川を はるかに望むこの丘に』

高の原小学校校歌ができたのは平成3年。この校歌を歌い、兜台を巣立った子供たちが、もう一度兜台に戻りたい、私たちはそういう街をつくっていきたくと思います。